

雪

Yuki Tane News No.395

たねニュース

令和3年(2021年)1月1日発行(隔月1回1日発行)

- ごあいさつ
- 2021年 北海道向け飼料用トウモロコシ すず紋病対策品種のご紹介
- 雪印メグミルク酪農総合研究所より新年のご挨拶と酪総研のご紹介
- 当社取扱い商品のご紹介
- 道央エリア担当・道東エリア担当より新年のご挨拶
- 雪印メグミルクのお料理レシピ

ごあいさつ

2021年の新春を迎え、皆様におかれましては穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より弊社事業につきまして、特段のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

2020年は、東京オリンピック・パラリンピック開催の年を迎え、日本全国が歓迎ムードに湧き始めた年でありましたが、新年早々、新型コロナウイルスが発生し、パンデミックとなり、1年延期となりました。人の移動が世界的に規制され、訪日外国人が減少し、外出自粛が全国に広がり、学校の休校により牛乳の余剰が発生し、廃棄も予想されました。しかしながら、国の施策、乳業界など関係機関の努力により最悪の事態の牛乳の廃棄は回避することができました。新型コロナウイルスの発生は、経済活動に大きな影響を及ぼし、新しい生活様式に向けての対応も必要となりました。しかしながらこのような中でも、自然は非情なもので7月には熊本を中心に、九州、中部地方などに豪雨が発生し、農作物の被害だけでなく、尊い人命も犠牲になりました。

農業は食を支える最も川上の産業であり、農業無くして食料生産はあり得ません。近年多発する自然災害など不測の事態に対しては、その状況を的確に捉え慎重に対応していくことが肝要となり、ますます国内需要に応える国産食料の生産基盤強化が必要な時代になっております。

農林水産省は2020年3月に、食料・農業・農村基

本計画を策定し食料自給率の向上に取り組むべき食料消費の見通し及び生産努力目標が公表され、畜産部会におきましては、今後10年間で酪農及び肉用牛生産の成長産業化の道筋を確固たるものとするため、第8次「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（新酪肉近）」を示しました。

いずれも農業を次の新しい時代につなぐ様々な施策が盛り込まれており、地域の生産基盤を維持・強化するために、農地の有効利用と自給飼料生産推進による飼料費、家畜事故率の低減や繁殖管理技術のIT化等により、農業の持続的な成長が望まれます。

2020年に弊社は創業70周年を迎え、今後とも創業の精神である「健土健民」と、社是である「技術と誠意で農業奉公」を会社理念として、お客様のお役に立てる様、生産現場に密着した商品と技術を開発し、ご提案していくことによって企業理念を実践して参ります。そして、これからも地域環境に適した自給飼料の増産と有効活用により、草地を含む飼料作物の管理技術や飼養管理技術の向上を進めると共に、酪農畜産の振興と地域の活性化に貢献したいと考えております。

2021年の皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

2021年元旦

雪印種苗株式会社

代表取締役 高山 光男